

# 「ここに生き続けられるために」【和泉自治会・福井県大野市】

記載例

## 1 活動の背景

- 和泉自治会は、平成17年に旧和泉村が大野市と合併したことを契機に、地域のイベントを自ら継続して実施するため、また、和泉地区を埋没させないために結成した。
- 近い将来、支所や診療所がなくなるのではないかという危機感の下、地区の将来を考え、行動に移していくため、住民の考えを聞く場を設け、活動を始めた。

## 2 事例のポイント

- 地域住民の度重なる会議により策定した「和泉地区地域づくり計画」に基づき、「生活」チーム、「産業」チーム、「人・伝統」チームがアイデアの具現化に向けた取組みを、できることから実行に移すことで、地区の中で必要となっていること、困っていることの解消に向けた取組みを行っている。

### 「生活」チームの取組み

空き店舗を活用し、飲み物、軽食を提供する交流の場「より処(よりどころ)」を開設。また、地区唯一の日用品販売店が閉店した後、地域住民の日常生活の利便性を向上させるため、移動販売車の派遣を依頼・実現したほか、地元企業とともにコンビニを誘致した。

### 「産業」チームの取組み

和泉自治会が100%出資し、株式会社九頭竜の贈り物を設立。地域住民が育てる野菜や、採集する山菜などを塩漬け、ピクルスなどに加工して、地元の道の駅九頭竜などで販売するほか、特産作物である「穴馬かぶら」を、冬季間、雪の積もった土の中で寝かせることで、甘みの強い「雪乃下穴馬かぶら」としてブランド力の強化に取り組んでいる。

### 「人・伝統」チームの取組み

和泉地区の歴史や文化に加え、自治会での取組み、地区内での取組みを、ホームページやFacebookを使って発信している。また、地区の歴史を残し、後世に伝えるため、旧和泉村が発行していた「広報いずみ」をスキャナーでデータ化する作業に取り組んでいるほか、「柝の実灰汁抜き」の伝統的な手法を次世代に伝えるため、名人の作業の様子をまとめたDVDを作成した。

## 3 その他

生活になくはない取組みから、地域の将来のためのものまで、地域で住み続けられるために必要となる取組みを、自ら考え、試行錯誤しながら、できることから、できる範囲で、住民を巻き込みながら実践し、地域力の向上につなげていることは全国の過疎地域のモデルとなる事例である。



より処



「雪乃下穴馬かぶら」の収穫作業の様子



広報いずみのデータ化作業の様子